

Ⅱ 平成21年度の取り組み

1 学校評価の概要

「Ⅰ 平成20年度の取り組み」のとおり、当園では、平成20年度に、新潟県私立幼稚園協会が文部科学省から委託を受けて実施した「幼児教育の改善・充実調査研究事業」の研究モデル園として、「幼稚園における学校評価ガイドライン」を踏まえた「幼稚園の学校評価の推進の在り方」調査研究に取り組みました。

その課程で、幼稚園機能部分での評価に加え、新たに認定こども園として加わった保育所機能の評価項目の設定や評価の体制づくりをどう構築するかなど新たな課題が浮き彫りとなり、「幼稚園における学校評価ガイドライン」だけでは対応することができないなどさまざまな課題を把握することができました。

また、実質5ヶ月（9月～1月）の短期間の研究であったため、認定こども園としての自己評価における評価項目や指標等を精査するまでには至りませんでした。

平成21年度は、「幼稚園における学校評価ガイドライン」やこれらの課題を踏まえ、認定こども園における評価のあり方について、特に以下の視点での取組を通して、認定こども園における学校評価の手法やその体制等について明らかにし、研究成果を広く普及することにより、認定こども園における教育・保育の水準の向上に資することができると考えました。

今年度の調査研究の基本方針は、次の2点です。

① 自己評価項目・指標等の検討と評価実施体制の構築

幼稚園機能と保育所機能を一体的に評価するための評価項目・指標等について、利用する保護者や子どもの状況が多様であることや、地域の子育て支援事業の実施など、認定こども園の目的や特徴（事情）を踏まえつつ検討を行い、評価項目・指標等を設定し自己評価を行いました。

さらには、幼稚園教員や保育士等が組織的に自己評価を行うための体制づくりについて検討しました。

② 客観性を高めるための学校関係者評価の実施

自己評価項目・指標等の検討と評価実施体制の構築並びに客観性を高めるために、自己評価を基に学校関係者評価を行いました。その結果を公表・説明することにより、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めることを目指しました。